

産総研と地域企業

産業振興で連携



60

グライコバイオマーカー・リーディング・イノベーション

ユニーク技術

グライコバイオマーカー・リーディング・イノベーション(茨城)が開発し、世に送り出すことができる新進気鋭のベンチャー企業である。15年3月3日、産業する。

技術総合研究所の技術 社名にある「グライコバイオマーカー」は、複数の独自の解析方法を開発し、前回の技術として世界的にも「糖たんぱく質」の構造変化を捉えて

糖鎖の時代がやってくる

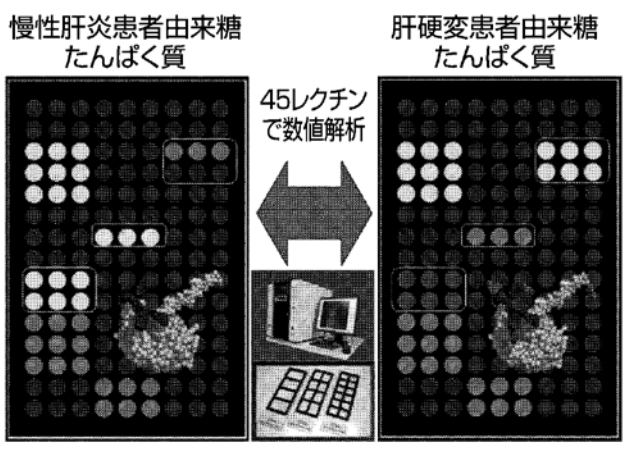
構造解析で疾患診断容易に

診断メーカーにしようというものであり、数年後には「DNA」や「たんぱく質」のようにさまざまな場面で見聞きするキーワードになっていくはずである。

レクチン活用

レクチンという物質と糖鎖の構造を見分ける組み合わせについて、産総研はレクチンと糖鎖との結合の強さを数百種類のレクチンと数百種類の糖たんぱく質を特定から抗体で分離し、それをレクチンマイクロ

レクチンマイクロアレイによる肝疾患の解析



アレイで解析しデータベースと照合すれば、糖たんぱく質の糖鎖構造のプロファイルが容易に分かるようになった。

糖鎖で見分け

そもそも糖鎖とは、約10種類の単糖がさまざまな結合様式で枝分かれした構造で、たんぱく質や細胞表面の脂質に結合している。約200種類の特異性の異なる糖鎖合成酵素が

あるが、細胞の種類、未分化・分化度、活性化状態、栄養状態、隣細胞との情報交換などにより、糖鎖合成酵素の発現の組み合わせや量が変化するため、合成される糖鎖構造は天文学的に多様な数となる。ところが細胞が、がんなどの疾患になると、細胞やたんぱく質自体は同じなのに、糖鎖の構造だけが変化する。この特性を

一言メッセージ

産総研生命工学領域研究 戦略部イノベーション コーディネータ 新聞 陽一

なかなか専門外の人たちに理解されなかった産総研の最先端の糖鎖研究にいち早く着目し、糖鎖の活用法について企業などへの普及活動を一緒に行うなど共に歩んできた。これからも一緒にがんばっていき